

31. Overview of the Philippine Health System

¹⁾ 医学部4年, ²⁾ 医学部3年,
³⁾ 熱帯病寄生虫病室, ⁴⁾ 国際環境衛生室
 押久保岳人¹⁾, 新井弘美¹⁾, 小島原駿介¹⁾,
 今野正裕²⁾, 鈴木立二郎²⁾, 鶴町直威²⁾,
 山口七夏²⁾, 千種雄一³⁾, 林 尚子³⁾, 大平修二⁴⁾

目的:

フィリピン共和国のマニラ, レイテ島, ミンドロ島での17日間の海外研修を通して同国の保健医療の問題点とその対策について学ぶ。

保健医療の問題点と対策:

1) 医療従事者確保のための対策

国立フィリピン大学健康科学部では, 助産師, 看護師, 医師の資格を取得できる独自のハシゴ状医療職養成教程を有し, 地域から推薦された学生が奨学金で勉学し卒業後には個々の出身地域で地域医療に従事する。

フィリピン保健省は未就労看護師の雇用促進と地域の医療従事者不足の両方を解決しようとする施策で, 国家試験に合格した新人看護師を農村部の医療施設に1年間採用するRN healsという施策が2011年度より開始された。

2) 母子保健対策

フィリピンの乳児死亡率は2.6% (日本: 0.2%), 出生10万対妊産婦死亡率は94 (日本: 6)であり, 同国の母子保健対策として周産期死亡率の減少が最優先課題である。高い周産期死亡の原因の一つに伝統的産婆による自宅出産が挙げられ, その打開策の一つとして行われているのが基礎的緊急産科新生児ケア (BEmONC) と包括的緊急産科新生児ケア (CEmONC) であり, 在宅での出産から施設分娩への移行を推進している。

3) 感染症

フィリピンでは日本住血吸虫症や狂犬病, デング熱, フィラリア症など日本ではほとんど見られない感染症が存在する。保健省はこういった疾患に対して, 様々なチームを置き, 治療, 予防に力を注いでいる。日本住血吸虫症に関しては, 研修では中間宿主であるミヤイリガイの採取と感染率調査を行い, 小学校における集団駆虫の実際についても見学研修した。

まとめ:

フィリピンの地域医療の問題点は都市部から離れた農村での医療従事者の極度の不足と医療サービスの都市部への偏在であり, その大きな原因として医療従事者の海外流出がある。そして, 感染症も含めこれらの問題に対して様々な打開策を実践しており, フィリピンの医療従事者は人々の命を守るという目標を持ち熱心に働いていた。我々はそれを直接現場で見て, 医療従事者のあり方を学んだ。今後, 医療に従事する者として, 今回の研修成果を基に日々自己研鑽していきたいと思う。

32. An Overseas Training Program at UCSD Moores Cancer Center

獨協医科大学 医学部 基本医学

医学部5年 有賀健仁, 植原良太, 内田菜々子,
 柿下優衣, 近藤忠一, 五島 恵, 佐々木拓馬,
 滝瀬修平, 内藤智子

基本医学 (語学教育部門): 水口 学

【目的】 University of California, San Diego (UCSD) とその関連病院の見学, カンファレンスへの参加や講義を通して米国における医療制度の特徴, 並びに緩和ケアの現状を学ぶ。

【方法】 実際に現地に伺い上記の病院を見学し, がん臨床・終末期医療に関して, チーム医療を担う医師, 理学療法士, ソーシャルワーカー, 作業療法士, 臨床心理士, 技師装具士などの職種の方々からご講義を頂いた。

【結果及び考察】 見学させて頂いたカンファレンスには医師以外にも様々な職種の方が参加されており, 我が国の医療現場では見られない光景に驚いた。日本においても多職種間で情報を共有し, 意見を述べられる環境が必要ではないだろうか。

米国には日本と違い国民皆保険制度は無い。そのため貧富の差により受けられる医療に差があり, 深刻な事態に陥るまで医療が受けられない人々も大勢いる。この現状から, 米国では患者の社会的, 経済的背景を考慮した医療を提供するために, ソーシャルワーカー等の働きが重要視されていることが分かった。

Moores Cancer Center では, がんに対して薬物や手術などを用いた積極的な治療を行うだけでなく, 予防や精神面, 社会面からのアプローチに対する研究が行われていた。がん社会となった現在では, 医療技術だけでなく, 患者を取り巻く様々な環境にも配慮していく必要があるのだと改めて感じた。

【結論】 米国では, がん患者に対する医療とは, 薬物や手術といった積極的な治療を提供するだけでなく, 精神的, 経済的, 社会的なサポートも含めた全人的な医療を提供するというものであった。また, この全人的医療を提供するために, 多職種がお互いに協力し合い多面的にアプローチし患者を支える, 言わば多職種によるチーム医療の体制もしっかりと作られていた。

今回の研修で学ばせて頂いた全人的な医療やチーム医療といった概念は, 今後日本でもますます必要となるため, 今回の経験を活かし, 疾患ばかりに目を向けるのではなく, 「患者さんを診る」という意識を持った医師を目指したいと考えた。